

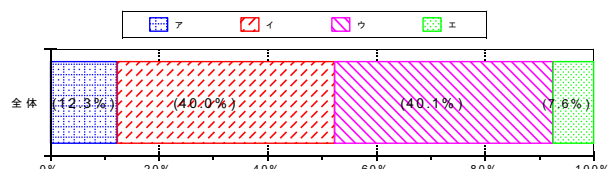
生活実態について（平成23年度各種調査における質問紙より）

【市評価規準診断テスト生活実態アンケート（小5～中3）の結果】（一部抜粋）

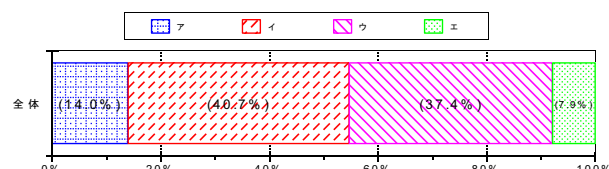
Q 家での勉強時間はどのくらいですか。

- ア 1日30分未満
- イ 1日30分～1時間未満
- ウ 1日1時間～2時間未満
- エ 1日2時間以上

小学校5・6年生



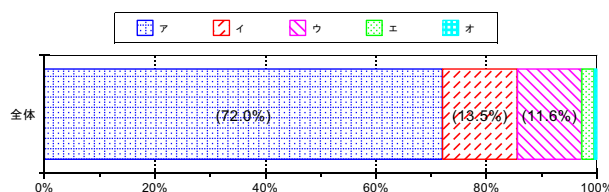
中学校1・2・3年生



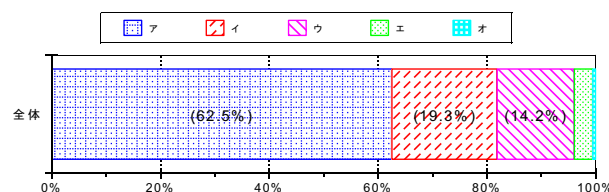
Q 学校から出された宿題はどうしていますか。

- ア その日のうちに必ずやっている
- イ その日ではないが必ずやっている
- ウ たまに忘れることがある
- エ やらないことの方が多い
- オ まったくしない

小学校5・6年生



中学校1・2・3年生

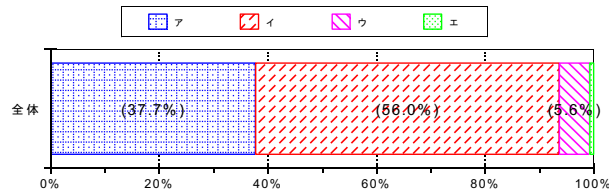


Q

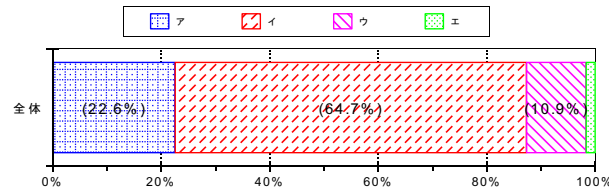
学校の授業はわかりますか。

- ア よくわかる
- イ だいたいわかる
- ウ あまりわからない
- エ まったくわからない

小学校5・6年生



中学校1・2・3年生



○「家での勉強時間はどのくらいですか」の質問では、家での勉強時間を、「1時間以上」とした児童生徒が4割を超え、昨年度よりも少し増えています。

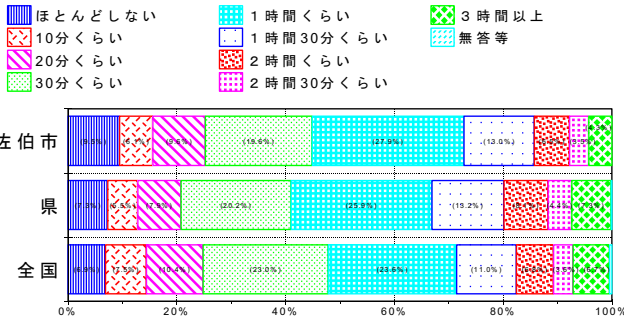
○「学校から出された宿題の実施状況」については、8割以上の児童生徒が「必ずやる」と答えており、これも小学校では昨年度よりも少し増えました。家庭学習としての宿題の効果が期待でき、今後も、自発的に宿題・家庭学習に取り組む態度の育成や学習達成度に応じた課題の設定等、家庭と学校とが協働した取組が大切です。

○「学校の授業はわかりますか」の質問では、児童生徒の8割以上が「よくわかる」「だいたいわかる」と回答しています。これも小学校で少し増えました。また、小学校から中学校になると、「あまりわからない」「まったくわからない」と回答する生徒が増加します。各種調査結果等の分析を基に、児童生徒の一人一人の課題を明らかにし、各種調査に伴う結果資料等も参考にして、より個に応じた指導法の工夫改善策を検討していくこと等が求められています。

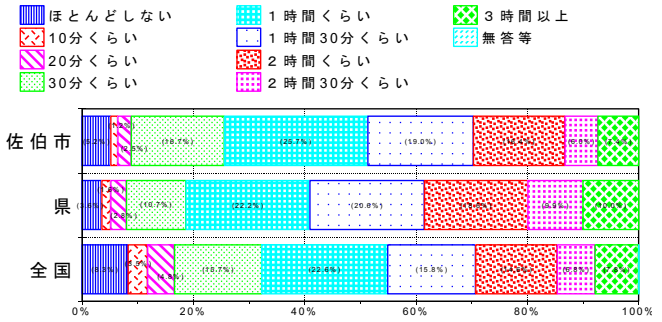
【大分県基礎・基本の定着状況調査児童生徒質問紙（小5・中2）の結果】（一部抜粋）

Q あなたは、この一か月、学校の授業時間以外に、一日どれくらい勉強しましたか。
 （学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に見てもらっている時間もいれます。）
 （学校の授業がある月曜日から金曜日について）

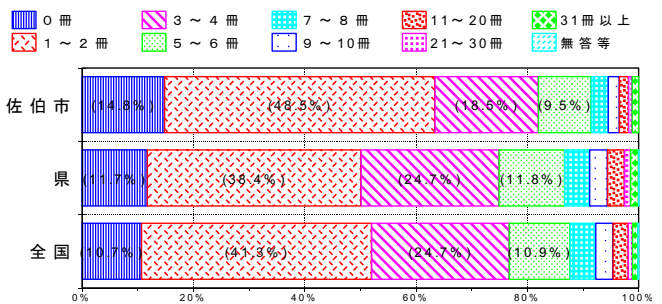
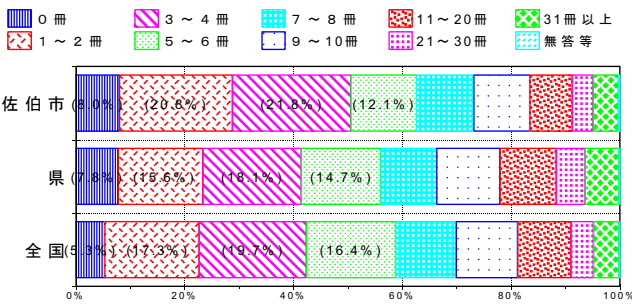
小学校5年生



中学校2年生

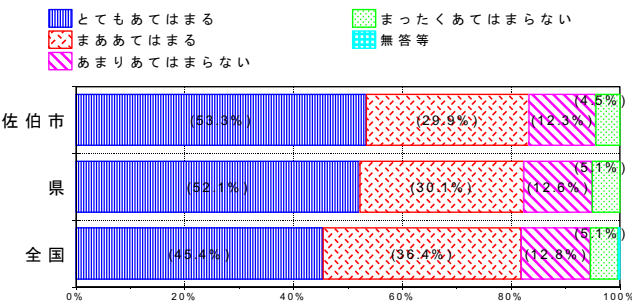


Q あなたは、この一か月の間に、本を何冊くらい読みましたか。
 （教科書や参考書、マンガはのぞきます）

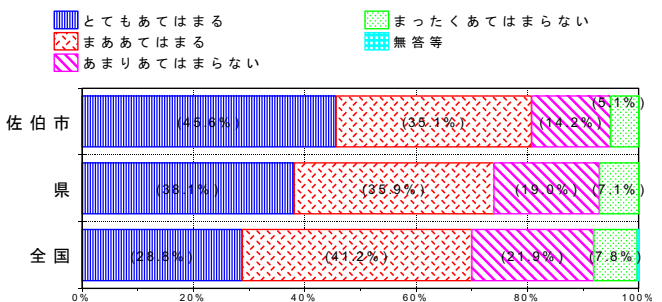


Q 学校での出来事を、家の人に話している。

小学校5年生



中学校2年生



【平成23年度の全国学力・学習状況調査は中止されました】

- 1時間以上の学習時間の割合を見ると、小学校5年生の平日の家庭学習時間は、5割以上となっており、県平均を下回ったものの、全国とほぼ同じ状況となりました。中学校2年生についても、県平均を下回ったものの、全国の平均を上回っています。今後も家庭学習の時間の充実に向け、質的な向上も視野に入れた、家庭・学校間の連携がより重要になってくると思われます。
- 一ヶ月間の読書については、小学校5年生で5冊以上読む児童は県や全国の平均を大きく下回っています。また、中学校2年生で3冊以上読む生徒も県や全国の平均を大きく下回っています。「0冊」か「1～2冊」の児童生徒が多いことがわかります。文字を早く読む、文意を読み取る、他の人の考えを知る、想像力を伸ばす等、読書にはさまざまな効果が期待されます。今後は、家庭との連携の下、読書習慣をつける取組がより重要になってくると思われます。
- 学校での出来事を家の人と話しているかどうかについては、小学校5年生については肯定的な回答の割合が国・県とほぼ同程度であるといえます。中学校2年生については、肯定的な回答が国・県の割合を少し上回っているといえます。家庭との結びつきがしっかりとしていることがうかがえます。